



第 98 回(平成 26 年 6 月 11 日)定例会の研究発表要旨

百人一首が伝える平安王朝の雅の世界

元札幌市市民局長 三井 尚 氏



ご存知の通り北海道の百人一首は、下の句を読んで下の句を取るのに対して、内地は上の句を読んで下の句を取る。歌の意味そのものについては、あらゆる参考書が出ているので、私は歌が詠まれた背景・作者、どんな考えで歌を作者は詠んだのかななどについてお話をしていきたい。

百人一首の選者は、藤原定家であるが、定家の日記「名月記」に「息子為家の妻の父である宇都宮頼綱(宇都宮の豪族)から、嵯峨中院の山荘の障子色紙形に染筆するよう頼まれ、天智天皇からはじまって家隆、雅経に至る百一首を選んだ」と書いてある。この中には後鳥羽院と順得院の歌が無く、別の歌である一条院皇后宮・権中納言国信・権中納言長方の歌が載っていて百一首となっている。

この百人一首の歌の全て、勅撰和歌集から選ばれている。

この勅撰和歌集というのは、天皇や上皇の命により編集された歌集のことだが、古今和歌集(延喜 5 年・西暦 905 年成立)に始まり、新統古今和歌集(永享 11 年・西暦 1439 年成立)までの 534 年間で 21 の勅撰和歌集があり、総称して「21 代集」といわれる。また編集時期の分類として「三代集」(古今集・後撰和歌集・拾遺集)・「八大集」(古今集から新古今集)・「十三代集」(新勅撰集から新統古今集)にも分けられる。このほか古今和歌集から続後撰和歌集までの「10 代集」もあるが、その中から百人一首が選ばれている。

百人一首は、百人の優れた歌人を上げて、1 人につき 1 首ずつ合わせて、百首の歌を選び出したもの。百人一首という名のはたくさんあるが、よく知られているのが、小倉百人一首であり、百人一首と言えば「小倉百人一首」を指す。

このことは先ほど述べた宇都宮頼綱の別荘が、嵯峨野にある小倉山の麓にあつたことから「小倉百人一首」と呼ばれるようになった。

百人一首の配列は、天智天皇、持統天皇の親子の天皇から始まって後鳥羽院、順得院の親子の天皇で終わっている。その中見はバラバラだが敢えて整理すると、春の歌が 6 首、夏の歌が 4 首、秋の歌が 16 首、冬の歌が 6 首となっている。

また恋の歌が一番多く 13 首、旅の歌 4 首、離別の歌 1 首、雑の歌 20 首ある。

歌風はわずか百首だが、簡単に述べつくせぬ複雑なものを持っている。恋の歌が多く、王朝風な優艶な気分をみなぎらせている。また思いを沈潜させた述懐歌、率直に心を表出した叙情歌など多様な歌風である。同時に全体的に流麗なリズム・声調を持つ歌が多い。

作者も各層にわたって多彩で、8 人の天皇をはじめ僧侶、公卿、殿上人、女官、人妻、地下の人などが詠まれている。

以下①天智天皇・後撰和歌集・秋の「秋の田の かりほの庵の 苦をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ」②持統天皇・新古今和歌集・夏の「春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干てふ 天の香具山」③柿本人麻呂・拾遺和歌集・恋「あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の 長々し夜を 獨りかも寝む」④小野小町・古今和歌集・春「花の色は うつりにけにな いたづらに わが身世にふる ながめせしまに」について、歌意、歌が詠まれた背景、エピソードを交えた作者像等についてそれぞれ解説が行われた(内容については、紙幅の都合で省略させていただきます)。 (村元 記)

石狩夢日記 2030

石狩市花川 鈞本 峰雄 氏

1986年に帰郷後石狩の町政モニターをしたのがきっかけで街づくりに関わるようになり、1990年頃に課題で書いたのがこの作品です。2030年には新幹線も札幌に届くのでここに掲げた夢の幾つかはきっと実現していると思います。それらを分類してみると交通・公共・商業の3種類の施設に分けられます。

まず交通施設では花川大通と新港の337号線を結ぶ工事が来年から始まるそうですが、防風林保護のため是非トンネルにして欲しいですね。将来生振インターを十字路口にして道の駅を作り、国道231号線を真直ぐ北に伸ばして志美橋をかけ河口橋につなぐと共に、麻生五叉路等をロータリーにすれば交通事情も良くなります。手稲石狩線は石狩本町と直結し、旧渡船場に地元住民のための弁天橋をかけます。銭函街道を復活してドリームビーチと石狩あそび一ちを結び、石狩河口の渡船を復活させ、外輪船を就航すれば観光客も増えるでしょう。新港にはフェリーポートを設け、敦賀か舞鶴に水中翼船を走らせる方法もあります。念願のJRは1998年の計画通り発寒から追分通りや防風林に沿って、新琴似北・花川・石狩市役所などに駅を設けます。地下鉄南北線はJR乗換えの新琴似北と花川南駅を、東豊線は篠路・拓北・北大・札幌空港などに駅を作ってはどうでしょう。以前計画のあった生振の空港は滑走路

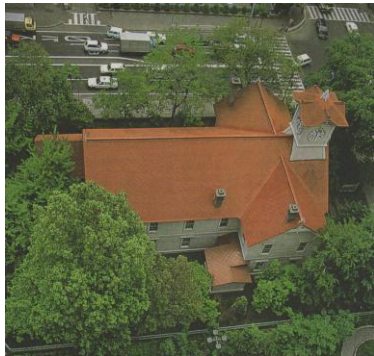


外輪船



の短い丘珠から移転し、地域ハブ空港にすれば札幌・東京間の移動が楽になります。

次に公共施設は北大の生振移転が考えられ、空港のそばにあれば国内の移動や海外留学生も便利です。北大跡地には北大構内の歴史的建造物と共に時計台を移設し資料館にします。マンションや宅地としても活用すれば人口増加にも対応できます。テレビ塔跡に球型の国際交流会館を建てる計画を聞いたことがあります。茨戸川の水質浄化のため石狩川から取水する計画があるので、ピトエ水門はもうすぐ出来ると思います。毎年海の日に新港でヨット教室があるので、いずれヨットハーバーも出来るのではないのでしょうか。創成川の東側と東区の一部を分けて篠路区にする計画がありますが、あいの里に自然動物園も出来るそうです。麻生下水処理場の上には亜麻工場記念館など如何ですか。石狩本町にも資料館を拡大した博物館と円形校舎を利用した缶詰記念館が欲しいですね。海浜植物センターもありますが、温室にして真冬も開館すべきです。ふれあいの杜の築山を利用した野外コンサートホールや、屯田西公園を整備して様々なスポーツが出来るスポーツの森も必要です。茨戸川に沿って出会いの森や藍の森を、花川北と緑苑台の間の自衛隊演習地を開墾の森に、オタベリケ丘の隣にはウタリ文化資料館を建ててはどうでしょう。また発寒川に沿って紅葉山自然公園と、発寒川の歴史や新川の掘削をジオラマで紹介する新川ホールもあればいいですね。



ます。軽石軌道を復元して、前田森林公園とスポーツ広場を結ぶ馬鉄もいいでしょう。



円形校舎を缶詰記念館に



温室型植物センター

新琴似北にはジャスコが出来る話がありましたが、それが決まれば地下鉄やJRの駅も出来るのでは。花畔インター西側のダイエー予定地にレジャーセンターを作れば小樽や江別からのアクセスも良く、緑化センターもインター東側に作れば相乗効果があります。テレビ塔は佐藤水産のそばに移設してはどうでしょう。石狩本町を伊達時代村のようなテーマパークにし、使えない番屋の宿をホテルに改築すべきです。厚田山奥にあるカートコースを矢白場に移転し、乗馬クラブを充実させて観光客を呼びましょう。右岸地区のブリザード体験ツアーはすでに東北で実施している所があります。



テイネ国際スキー場



軽石軌道復元馬鉄

分科会報告

★ 開拓史研究部

6月の例会で、今後の活動について話し合い、次の事が決まりました。

- 1 例会は偶数月第4水曜日 PM1時30分～3時30
- 2 会員10名で発足
- 3 会費は当日参加した人から徴収
- 4 内容として 開拓の歴史を主とするが、身近に有る事例、ノンフィクション文献等を取り上げて研修する。また、リクエストを受けて得意とする方に発表してもらい、現在（手稲の橋 温泉、ムム「池」、さくら堤等、）がでています。内容については、この様に皆さんの色々な意見が出てきました。又、話し合いの中で、その他の話題も豊富にあり、（座禅の話し、池が埋められていくので記録し残したい、等）知らないことも出て来て楽しい時間だったとの、意見もありました。以上、この様な事に基づいて活動を行います。また、この会はゆったりとした会にして行きたいと思っています。

配付資料 開拓記念館 長期休館のお知らせ、北海道開拓の概要、開拓の村年間行事予定表
追伸ですが会員以外でも自由に参加して下さい。（資料代などは頂きます）

次回 「8月27日」 依田勉三（光と影）発表者 村元氏 を予定しています。（濱埜 記）

★ 文芸サークル

6月の例会は、「開拓史研究部」の研修日でしたが、「3月例会のおさらい」ということで「文芸サークル」の研修も行いました。補足の解説などいろいろな話題が飛び交いました。その中で会員の野村氏の次のような話が印象に残りましたので記します。

「…… 野村義一さんが国連総会で「先住民のための国際年」の記念講演で、日本のアイヌ民族を代表して、民族衣装を着て、アイヌ語で世界に向かって発言した。野村さんの発言で大事なことがある。それは、次のような宣言である。

ウタリ協会が主張することは、独立国にせよとか、領土を寄せよということではない。高度に発達した自治を実現してほしいということである。今白老に建設中の「象徴空間」も「信仰・共生」の意義を民族の誇りとして残して、皆さんにも見ていただき、理解してほしいということを要求するのであって、『日本人として生きていくために、アイヌ民族としての誇りを持たせて欲しい』ということである。

同じように、萱野さんが、『アイヌ民族・アイヌ文化を尊重し、機会均等と文化の尊重、民族性を尊重してもらいたい』と、国会でアイヌ語で演説している。……」（小田 記）

手郷研クイズ

手稲区にはマスコットキャラクターがあります。その名前は何といいますか？

- A. ていね B. TEINE C. ていぬ

★ データ整理部

前回の例会でお知らせいたしましたが、新しいサークル「データ整理部」が発足しました。毎月第3木曜日を例会日と定めて活動していく予定で、今月は17日が活動日になります。今回の作業は「手稲歴史年表」の索引作りをやります。

ご賛同いただける方は是非ご参加いただき、ご協力ください。

会員の広場

手稲山の「義経埋蔵金」余話

手稲郷土史研究会副会長 一ノ宮博昭（稲穂在住）

ミニコミ紙「ていね倶楽部」に義経が登場したのは、平成7年新年号（第5号）から平成12年9月号（最終回）までに、数十本になった。特段、歴史ものが好きだったわけではなく、区民を驚かせてやろうという物見高さが動機だった。



義経埋蔵金を説明する筆者
=区民センターで=

いらい、区内の老人クラブ稲苑大学から解説を依頼され、頼まれるまま南、北、西、豊平区まで出向き、ひたすら語り続けている。

自分で書き、これを語るわけだから、いつしか僧侶の読経のように、すっかり暗記するようになった。

よく90分もしゃべる材料があるもんだといわれるが、自ら調べ上げたものはひとつもない。すべて、研究家から聞いた話であり、資料提供を受けたものばかりだ。

今年もすでに2回、これから2回の講演予定が入っており、聞いてくれる顔ぶれが変わるのだからいいだろうとばかり、ひたすら同じテンポで繰り返している。

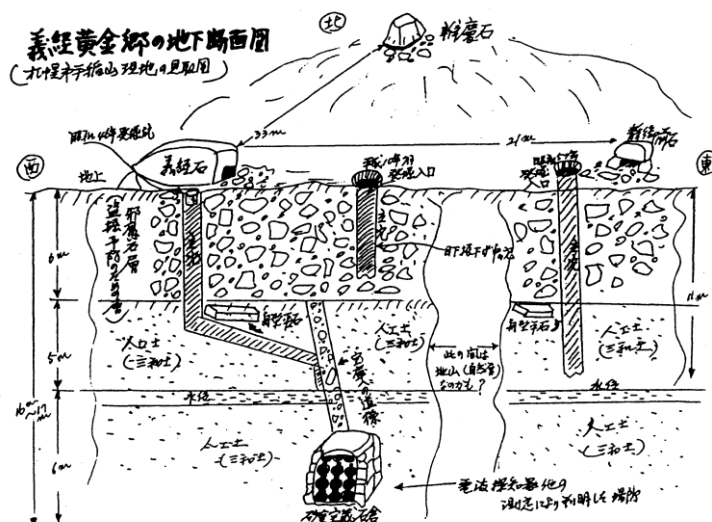
では、義経渡道の全容をぴったり決めているかということ、そうではない。あれを言い忘れた、これも脱落していたと、反省することしきりである。2、3回付き合ってもらえれば、この部分だったかとすぐネタがばれる。

いつだったか、Aと説明したらBではないかと指摘を受けた。こうなると、たちまち立ち往生だ。取材内容を反復しているだけなので、弁解のしようがない。質問は一切受け付けないという理由がそこにある。

壮大な夢とロマンの大舞台が手稲山だけに、手稲区民の私にとって格好の材料だ。受講者の高笑いを期待して、古い資料を丹念に読み返す日々が続いている。



巨岩「義経石」の前の筆者=左下が人力で掘削、ほら穴状になっている=



次回の予定

次回（8月13日）は、札幌建築鑑賞会 菅原純子氏の講演「札幌軟石発見大作戦」と土谷聖史氏の研究発表「平和の滝とその周辺」を予定しております。

会場は**介護老人福祉施設 手稲つむぎの社会議室**（前田2条10丁目1-7 TEL: 685-3726）です。